

学校だより



# 稲荷台

令和5年4月7日

4月号

横浜市立稲荷台小学校

## 一歩進めて

校長 中山 正之

卒業式の頃に咲き始めた桜の見頃が、そろそろ終わろうとしています。それに代わるように木々が緑色の葉をつけるようになりました。令和5年度が始まりました。

この4月からマスクの取扱いについて、「学校教育活動においても、個人の主体的な選択を尊重し、児童生徒・教職員とも着用を求めない」こととなりました。換気や相手との距離等の留意点はありますが、子ども達、教職員共にマスクをしなくてよい生活が始まります。3月の修了式では子ども達に「マスクを外せてうれしい人と心配な人がいます。お互いのことを考えて、少しずつ慣れていきましょう。」という話をしました。3年あまり続いた習慣を変えていくこととなります。学校ではマスクの着脱を強いることのないようにし、子ども達の間でもマスクの着用の有無による差別や偏見等がないように、丁寧な指導を進めていきます。何かご心配な点があれば、学校にご相談いただければと思います。

さて、例年始業式や入学式で私は子ども達に「あいさつを大切にしよう」という話をします。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」の五つの言葉を生活の中でしっかりと使えるようにしようという内容です。基本的な部分は変わっていませんが、年ごとに呼びかける内容を一歩進めたいと思っています。今年は「ありがとう」と「ごめんなさい」と特に意識していこうと呼びかけました。本校の子ども達は、「おはよう」や「こんにちは」「さようなら」といった日々同じ場面で繰り返すあいさつは、とても良くできます。相手に目を向け、にこやかなトーンで言ってくれます。一方、「ありがとう」や「ごめんなさい」は、感謝や謝罪の気持ちが伴わないと出てこない言葉です。また、気持ちがあつたとしてもとっさにはなかなか口に出せないこともあります。日々子ども達と接していると、気持ちはあるのにためらっているなど感じることもよくあります。ですから、私は今年度子ども達にこの部分を一歩進めてほしいと思っています。つまり、「そう感じたら、『ありがとう』と『ごめんなさい』を言葉にしよう」ということです。

それから、もう一つ。「ありがとう」「ごめんなさい」に対して、何と答えるのか。これは子ども達への問いかけとして預けました。「私はこう答えました」でも「友達に私の『ありがとう』にこう答えてくれました」でもいいのです。少し意識することで、当たり前なことを改めて考える機会をもち、家族や友達との接し方を少しでも豊かにしてくれたらと願っています。ご家庭でもお子さんの言葉に注意深く耳を傾けていただき、何か変化が感じられたら、ぜひ褒めてあげてください。私も折に触れ、「ありがとう」「ごめんなさい」を話題にしていきたいと思っています。

今年度も学校教育目標の「自分とみんな いいな いいな 稲荷台」に向けて子ども達を育てるべく、教職員一同、一人ひとりを大切に、支援していきます。どうぞよろしくお願いたします。